

会 報

平成20年12月17日

教育者会議

第11号

北海道

発行：北海道北方領土教育者会議

事務局：北方領土復帰期成同盟内 (電話) 011-205-6500 (FAX) 011-205-6501

〒060-0031 札幌市中央区北1条東1丁目2-5 明治安田生命札幌北1条東ビル7階

「北方領土教育研究セミナー」

開催されました。

- ◆ 日 時 10月24日(金) 12時50分開会
- ◆ 会 場 苫前町立苫前中学校(高清水照二校長)
- ◆ 公開授業 中学1年 (授業者・鈴木義樹先生)



1年前より留萌地方社会科教育研究会(会長：井上義博 遠別小学校長)の全面的なご支援をいただき、清楚で明るい校舎を会場に盛会裏に終了しました。

参加者総数は60名となり、留萌管内を中心に札幌、上川、根室からも参加がありました。

鈴木先生の授業は、自分がピザなし交流で色丹島を訪問した体験を授業に組み入れながら、生徒の興味・関心を途絶えさせることなく進めていました。留萌地方社会科教育研究会の仲間による事前研究を数度にわたって行い、当日も空教室で仲間の先生たちとリハーサルをし、公開に臨んでいました。その熱心さと留萌地方社会科教育研究会の組織的な活動に敬服しました。

当日の授業案は別紙で同封します。ぜひ参考にしてください。

元島民高塚さんの講話



平成 20 年度 第 25 回

主催；根室管内北方領土学習研究会

北方領土学習研究大会

- ◇ 去る 12 月 5 日（金）別海町立西春別中学校を会場に開催されました。
- ◇ 公開授業は中学 1 年社会科 単元名『北方領土問題を考えよう』
- ◇ 授業者：三村 謙太 教諭
- ◇ 生徒 5 名の小規模学級でしたが、楽しい授業でした。



小規模校なので、全校生徒合同の授業も検討したようですが、やはり 3 年間の系統的な学習を大事にするということで、1 年社会科の授業として組み立てたと話していました。

先生はビザなし交流で島を訪問した体験を随所で提示しながら、在住ロシア人の考えも紹介し生徒の考えを引き出していました。

最後は「ロシア人との共生は可能か」という設問で生徒の考えを発表しましたが、少人数ながら可能・不可能双方の意見が出され、生徒の発想になるほどと感心させられました。



この研究大会も 25 回目となり、四半世紀にわたり北方領土学習を先導してきており、全道はもとより徐々に広がりを見せてきている全国での実践の指標ともなっています。

“根室だからできる”とよく言われますが、会場の別海町西春別は内陸の酪農地域であり北方領土問題に接する機会は少ないと思います。主催の根室管内北方領土学習研究会がテーマとしている《いつでも どこでも だれでもできる》北方領土学習を広げていくためにも、また一つ実践例を積み重ねることができたと感じています。

前述の『セミナー』授業案と同様、今回の授業案も別紙でお送りしますので、是非参考にしていただき会員の皆様が北方領土学習の授業を実践・開拓されますようご期待しております。